

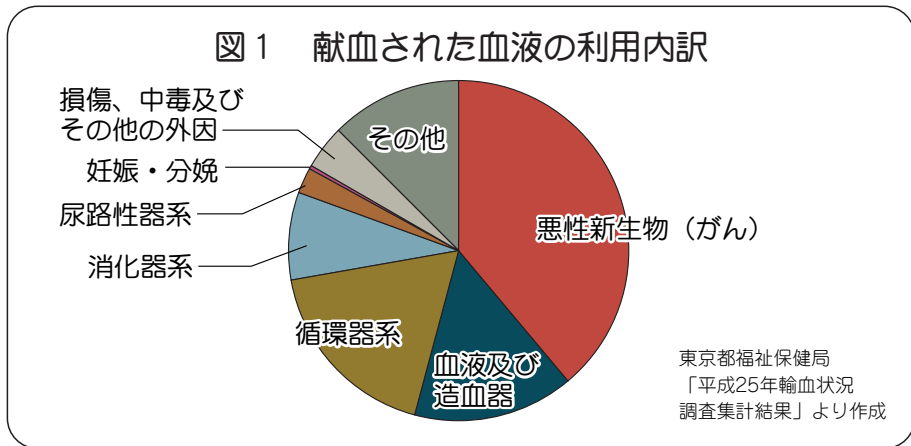
# 献血について 知ろう

～どうして献血って必要なの？～

## はじめに

血液は、栄養や酸素の運搬、免疫など人間の生命を維持するために不可欠です。現在、血液の機能を完全に代替する手段はないため、医療において輸血は欠かすことができない治療法となっています。皆さまの献血が医療を支えているといっても過言ではありません。

献血された血液は赤血球、血小板、血漿などの輸血用血液製剤や血漿中の特定のタンパク質を抽出・精製した血漿分画製剤などとして、多岐にわたって使われます(図1)。



## 献血の種類

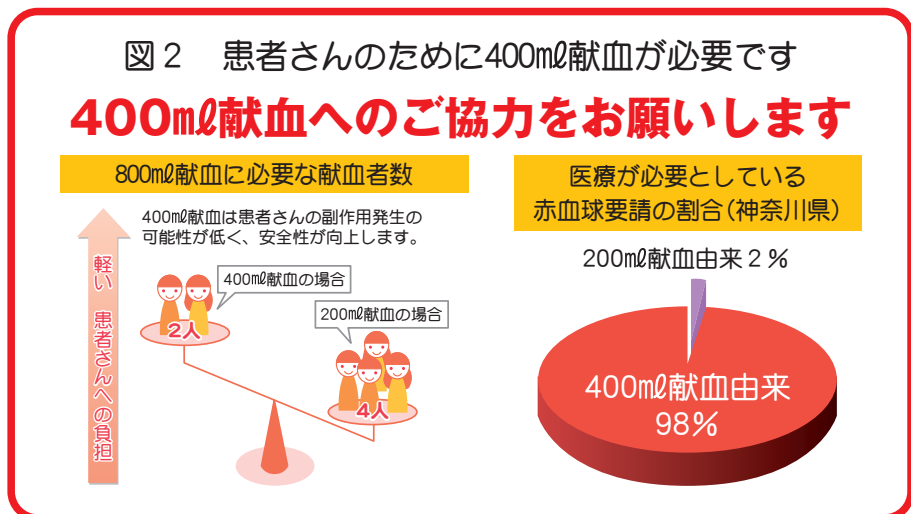
献血は、全血献血(400ml・200ml)と成分献血があります。全血献血は、血液をそのまま採血する方法です。200ml献血は16歳から、400ml献血は男性17歳・女性18歳から可能です。

成分献血は、機械を使用して血小板や血漿といった特定の成分だけを採血する方法で、体内で回復に時間のかかる赤血球を再び体内に戻すため、献血者にとって体への負担は軽いといわれています。

所要時間は全血献血で40分程度、成分献血では60～90分程度です。採血のみにかかる時間は全血献血で10分程度、成分献血で40～60分程度となります。

## なぜ、400ml献血が必要なの？

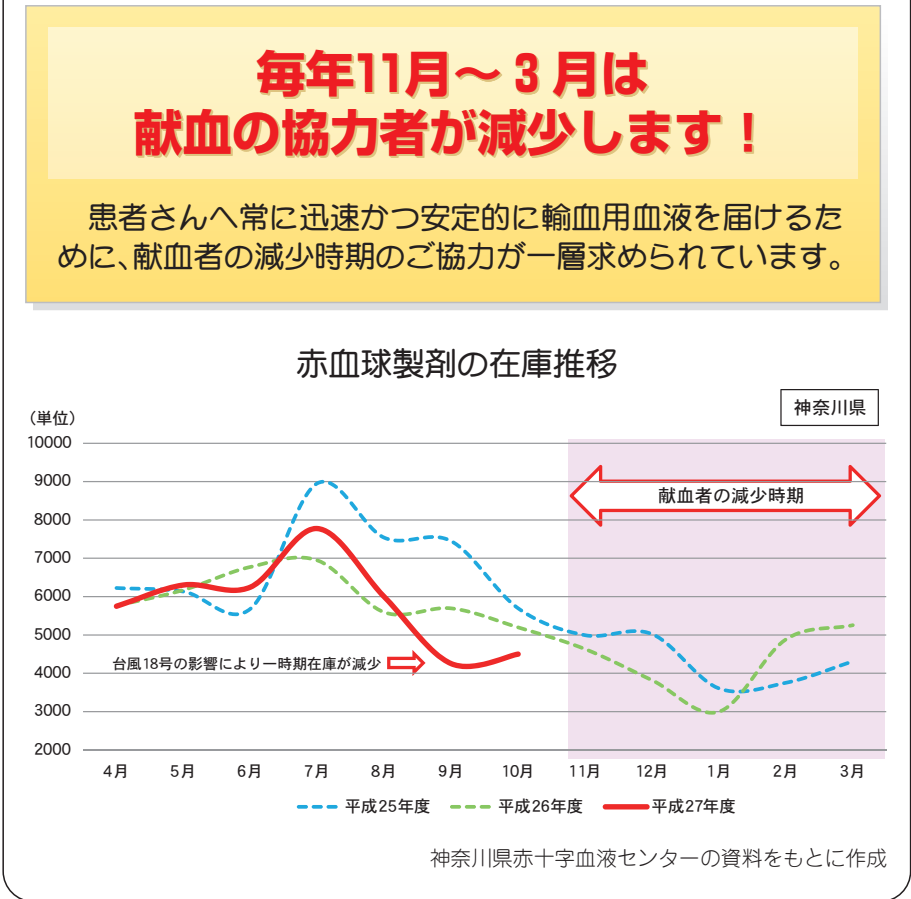
人間一人一人の血液は、血液型が同じであっても微妙に異なります。200mlだけ、あるいは400mlだけ輸血することは比較的少なく、一人の患者さんに複数の方から献血でいただいた血液を輸血することが大半です。複数の方からの血液を輸血すればそれだけ副作用(微熱・発疹など)が発生するリスクが高まるため、神奈川県内の医療機関からは400ml献血で頂いた赤血球製剤が求められます。そのため、血液センターでは献血にご協力いただける皆さまに対し、健康や安全を考慮した上で400ml献血へのご協力をお願いしています(図2)。



## なぜ、冬場に血液が必要なの？

例年、冬場になると献血者が減少します(図3)。どうして冬場は献血協力者が減少するのでしょうか。これは寒さのために外出を控えることや、献血者自身が風邪などで体調をくずしたりすることが原因と思われます。また、年末年始や年度替わりの時期にさしかかるため、学校や企業、団体などのまとまった協力が得られにくくなることも原因の一つです。しかし、輸血を必要としている患者さんの数は変わることがないので、輸血用血液の必要量が減少することはありません。

図3 赤血球製剤の年間在庫推移(200mlを1単位とした在庫数)



## おわりに

平成25年度の献血者数は、全血・成分献血を合わせて、約516万人(延べ人数)でした。そのおかげで、約104万人の方に輸血することができました(平成25年度 日本輸血・細胞治療学会調査)。

神奈川県では、1日約900人の献血協力を必要としています。血液は人工的に作ることができず、長期の保存もできません。寒さが厳しくなる時期こそ、積極的な献血のご協力をお願いします。

なお、献血バスの運行予定については神奈川県赤十字血液センターのホームページでご確認ください(実施会場・時間などについては、変更となる場合がございます。あらかじめご了承ください)。

<http://www.jrcs-kanagawa.org/ketueki/>  
(相模原市健康福祉局 保健所 医事薬事課)

